

2024 年 10 月 31 日

通貨ニュース

メキシコ:米大統領選挙を前に 2 年ぶりの安値を付けた MXN

MXN、2 年 1 か月ぶりの安値を更新

10 月 30 日、MXN は対ドルで一時 20.23 付近を付け、2022 年 9 月 29 日以来の安値水準を付けた(図表 1)。同日の値動きを確認すると、欧州時間に MXN 売りが目立ったのだが、特段目立った材料があったわけでもない。米大統領選挙を前にした投機的な値動きと判断するのが妥当であろう。実際 30 日には、USD/MXN のインプライドボラティリティ(1 か月物)が 2020 年 4 月以来の高水準に達している(図表 2)。もとより高金利通貨である MXN にとって、変動性の高まりは天敵である。

MXN の下落基調は 2024 年 4 月以降のトレンドだが、特に 10 月以降の MXN 安に関しては、メキシコ・米国のファンダメンタルズを反映した訳ではないと考えている。確かにメキシコ中央銀行(Banxico)は利下げ局面に入っているが、10 月にハト派スタンスを強めた事実はない。堅調な米雇用関連指標、FRB に対する利下げ期待の後退などが米金利を押し上げているが、これ自体は MXN にポジティブになる側面も大きい。実際、堅調な米経済指標が出た場合、MXN は上昇で反応するケースが多い。

結局、10 月以降の金融市場では、米大統領選挙におけるトランプ氏の勝利を見込んだトレードが流行しており、その圧力で MXN が売り込まれていると解釈するのが自然であろう。実際、いわゆる「トリプルレッド」を見込む向きは足許で急速に増加基調にある(図表 3)。米大統領選挙がメキシコ経済および MXN に与える影響に関しては、過去の『通貨ニュース』(*1) (*2)で度々論じた経緯もあり、尚且つ一般的に報道もされている。MXN は、米大統領選挙にまつわるヘッドラインに対し、最も大きな反応を示す通貨と言ってよい。

今後の MXN に関しては、短期的には米大統領選挙の結果次第としか言いようがないが、本稿執筆時点ではトランプ氏勝利の思惑が市場を動かしている側面も大きく、実際にそうなった場合 MXN はやはり売りに晒されよう。ただし、織り込み済みの部分も大きいだけに、9 月のメキシコ司法改革法案成立に絡んだ値動き同様、むしろ「材料出尽くし感からの MXN 反発」に至る可能性を意識したい。いずれにしても、米政治体制がどうなるのであれ実際に影響が出てくるのは来年以降だ。政治にまつわるノイズを通過し、MXN も次の居所を探る展開となろう。少なくとも年内に関しては、一定の買い戻しの余地があると考えている。

7～9 月期の実質 GDP 成長率は市場予想を上振れ

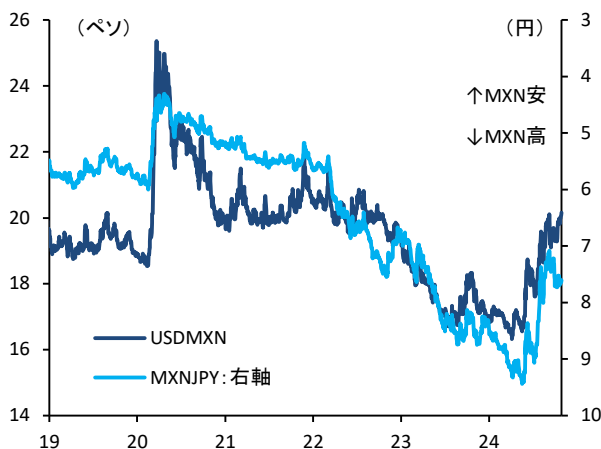
ところで、10 月 30 日には 7～9 月期 GDP 成長率(速報)も公表されている。結果は、前年比+1.5%と 4～6 月期の同+2.1%を下回ったものの、市場予想の同+1.2%を上回った(図表 4)。前期比(季節調整済み)で確認すると、+1.0%と 4～6 月期の+0.2%から大きく伸びが加速しており、7～9 月期の域内経済は比較

金融市場部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

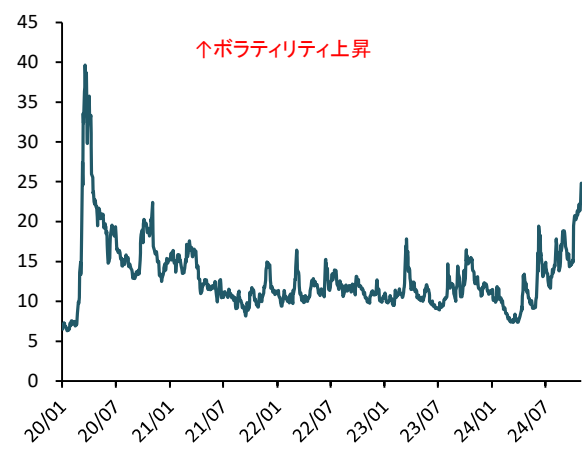
的堅調であったと評価できよう。もっとも、これほどの前期比の伸びが続くとは考えにくい。確かに、Banxico の利下げ継続は個人消費の下支えになろう。ただし、対内直接投資フローの減退、および内政不確実性の高まりから特に製造業部門において投資不足が鮮明になっている。また、米景気は未だに強さを誇っているが、今後一定の景気失速は不可避であろう。輸出の低迷も予見される。以上の要素に鑑み、来年いっぱいにかけては、メキシコの成長率はやや弱めの推移が続くと想定している。

(*) 詳細は、2024 年 7 月 16 日発行の通貨ニュース、『メキシコ: トランプリスクに直面する MXN』をご覧ください。

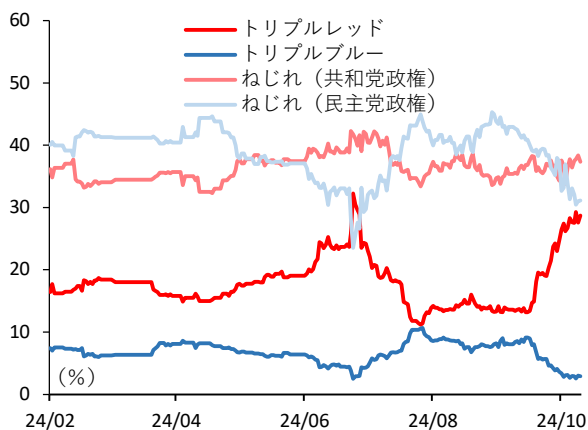
(*) 詳細は、2024 年 4 月 30 日発行の通貨ニュース、『新興国: 「トランプ 2.0」を考える』をご覧ください。

図表 1: MXN 相場


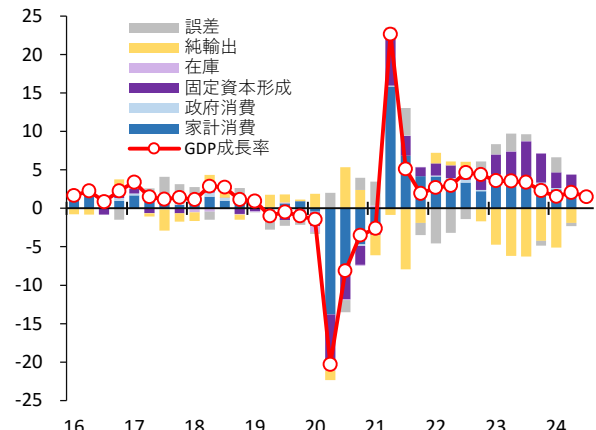
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: USD/MXN のインプライドボラティリティ


出所: Bloomberg、みずほ銀行 ※1 か月物

図表 3: 米大統領選挙、大統領と議会の組み合わせ予測


出所: Bloomberg、みずほ銀行 ※「ねじれ」には、上下院の支配政党と大統領所属政党が異なるケースも含めた

図表 4: メキシコの GDP 成長率(前年比%、%ポイント)


出所: Bloomberg、みずほ銀行 ※7~9 月期は成長率のみ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。